

中国留学のはじまり

1. はじめに

私は、約二年前文化・語学研修で曲阜を訪れる機会があり、中国の文化や言語に興味を持ち始めた。そこで、曲阜師範大学に一年間の交換留学をすることを決めた。現在山口県立大学からは私ともうひとりの同級生、二人が曲阜師範大学に留学している。中国での留学が始まって約一か月。まだまだ肌寒い日が続くが春になり花も咲き始めた。これまでの日本での生活とは全く違う、想像のつかないような貴重な体験をしていることを身にしみている。現在は一か月たち中国での生活にも慣れてきたが、中国に来るまで、慣れるまで準備したことや苦労したことが沢山ある。

初めての留学でどのような準備をしたらいいのか見当がつかない。留学の生活が想像つかない。そのような状況から始まった私に役に立ったのが先輩方の留学レポートだった。私も中国留学に悩んでいる人、留学準備に悩んでいる人の役に立つレポートを書きたいと思う。

そこで今回のレポートでは中国への留学に興味のある方に向けて、これまでの準備の過程と現地に着いて生活するためにしたことについて述べる。

2. 留学前の準備

何をしたらいいのか見当がつかないまま学校から連絡があるまで何もしないというのは時間の無駄である。待っていては準備が間に合わないかもしれないので注意しなければならない。そこで様々な準備の中で、自分でできる準備、準備しておくの良いものを四つ厳選して紹介しようと思う。

(1) デビットカード

曲阜師範大学につくとまず多額のお金が必要になる。そのため私は福岡空港であらかじめ多めに換金しておいた。しかしそれだけでは十分であるか不安だったため作成したのがVISAのデビットカードである。一年分のお金を現金で換金して持っていくのは便利だが、私にとっては高額であり不安だったため日本でデビットカードを発行した。

このカードは日本の銀行から入金することも可能で家族に頼んで入金してもらうこともできる。大学の近くに中国建設銀行という銀行がありその銀行で中国元としておろすことができるためお金が主許に不足した時や非常時にとっても便利なカードである。

また日本で日本円を中国元に換金する時に、私は非常に苦労した。大金を換金するため銀行にあらかじめ電話して確認しなければいけない。私は田舎に住んでいるため近くに換金できる場所がなく最終的に日本を出国するときに空港で換金することにした。また曲阜の大学の近くに換金できる場所はなく、少し離れた大きい中国銀行でも外国人はカードを作らないと換金できないらしく非常に煩雑である。そのためあらかじめ日本や空港で換金

してくることをお勧めする。

(2) 外国人体格検査

この検査は日本の国立・公立病院や日中友好病院または中国で受けなければならないものである。検査を受けその書類を留学先の学校に提出しなければならない。中国でも受けることはできるが多くの留学生は渡航前にしているので、不安な場合は事前に行うことをお勧めする。私はビザが取れるまでこの検査はできないと思っていたため中国で受けようと考えていたが、ビザがなくてもこの検査は行うことができた。山口県立大学から最も近い場所としては、防府市にある山口県立総合医療センターで事前に電話で予約して受診することができる。結果が出るのに約一週間以上かかるため余裕をもって受診したほうが良い。

(3) ビザの発行

ビザ申請に必要な書類「入学許可書」と「JW202」というものが曲阜師範大学から届くが今回留学する私たち二人はこの書類が届いたのが一月の後半だった。どこで申請したらいいのかも分からなかったため私たちはとても焦った。近いところで福岡に直接行くこともできるが、また福岡に受け取りにいかなければいけないためとても手間がかかる。そのため私たちが利用したのが CITS JAPAN という代行の会社である。その会社のホームページから必要な書類をダウンロードし書き込んだ文書、中国ビザの規定の証明写真、パスポート、先ほど紹介した曲阜師範大学から送られてきた書類を会社に送ると約二週間で届く。費用は約 10,000 円で後から請求書が届き入金するという仕組みである。書類など分からないところは会社に電話で問い合わせるととても親切に対応してくれる。曲阜師範大学からの書類が届くのを待っているのではなく、届いたらすぐ送ることができるようにあらかじめ証明写真や書類の準備をしておくことをお勧めする。

(4) SIM フリーの携帯

一番気になるのが携帯電話（以下、「携帯」と略称）の使用ではないだろうか。ここでは iPhone を利用していることを前提に述べる。その理由は Android の携帯などは中国の電波が対応しておらず利用することはできない。そのため中国で携帯を購入して SIM カードを購入しなければいけない。事前に自分の使っている携帯が中国で対応できるかを確認しなければならない。私は iPhone を日本で使用していて中国でも対応していたためそのまま中国で利用することにした。しかし日本での設定のまま中国で使用してしまうと高額な額を払わなければいけない。そのため私は日本を出発する前日に携帯ショップにおいて携帯を SIM フリーの状態にしてもらい日本での使用を休止扱いにした。重要なのは SIM フリー状態の携帯を持っていくことである。その状態にすることによって中国でも活用することができる。その後中国で行ったことは後程説明する。

また中国は規制が厳しいため LINE、Instagram、Facebook、Google が利用できない。そのため中国では主に LINE に変わる「Wechat」や Google に変わる「百度」というアプリを利用している。あらかじめダウンロードしておくとい。また VPN というアプリをダウン

ロードすればLINEなども利用することができる。無料のアプリもあるが有料のアプリを使用すれば日本と同じようにスムーズにLINEなどを利用することができる。私は無料のVPNのアプリを活用しているが生活に困らない程度にどのアプリも利用できるため無料でも不便はないと思う。

3. 到着後にしたこと

授業が始まるまで少し期間があるため私たちは生活ができるように物をそろえたり銀行を開設したり携帯を利用できるようにしたり、中国では電子マネーが一般的のためその電子マネーが利用できるようにしたりした。私たちは曲阜に着いたとき中国語も話せず中国人の友達もいなかったためコミュニケーションをとることができず苦勞した。しかしこれはすべて準備しなければいけないことであるのでこのレポートを読んで内容を理解して勇気を振り絞って挑戦してほしい。

(1) SIMカードの購入

私たちが最初に行ったことがSIMカードの購入である。その理由は銀行口座を作るのに携帯番号がいるためである。大学内にはたくさんの携帯会社がある。私たちが購入した携帯会社は中国移動（China Mobile）である。理由は簡単で私たちが住んでいる寮から最も近い場所にあるのと大学内や大学付近に多くあるのがこの会社だったためである。SIMカードが欲しいと伝えるとプランなどを中国語で話された。理解できなかつたため紙に書いてもらい一緒にいた韓国人やカナダ人の留学生に助けてもらいながらなんとか理解でき月に18元払うSIMカードを購入した。その場では最初に50元払った。驚いたのは中国の電話番号は自分で選ぶことができるということである。一枚にたくさんの電話番号が書いてありその中から好きな電話番号を選ぶことができる。月々の支払方法は電子マネーで行う。後程説明するが電子マネーのアプリに携帯の支払いを行うことができる専門のところがある。事前に入金しておき決まった日に18元が引き落とされるという仕組みである。

(2) 銀行の開設

私は先ほど説明したデビットカードを持ってきていたため中国での銀行の開設は必要ないと思っていたが電子マネーを利用するのに必要だったため開設することにした。大学内や大学付近にはたくさんの銀行があるが唯一開設できたのが中国建設銀行だった。他の銀行に行っても外国人はできないと拒否されてしまった。多くの留学生がこの銀行で解説しているため手続きもスムーズであった。手続きで必要なのはパスポートと中国の携帯番号と日本の住所である。日本の暗証番号は4桁だが中国の暗証番号は6桁であるためあらかじめ考えてメモしておくのが良い。日本の様に通帳はなくカードだけ渡されて手続きが終了した。現金で持ってきていたお金をカードに入金することができる。

(3) 電子マネーの活用

次に私たちが行ったのが電子マネーの登録である。中国では現金で支払うことが少ない。現金で支払えないことはないがお釣りを持っていないと言われたり嫌な顔をされたりすることがある。そのため電子マネーの活用をお勧めする。微信（Wechat）支付宝という

アプリで開設した銀行と連携させると利用することができる。店舗には各アプリずつにバーコードが貼ってありそれを読み取るか自分のバーコードを店の人に読み込んでもらうことにより支払いができる。他にも先ほど説明したように携帯の支払いができたり、友達にお金を送ったり、タクシーを呼ぶこともできる非常に便利なアプリである。私たちは現在このアプリを活用しているため外に出るときは携帯だけ持っていれば困らない。財布を持つことは非常に少なくなった。

4. おわりに

以上述べたのが、私が沢山伝えたいことがある中で厳選したことである。紹介したのはほんの少しで他にも準備したことや現地でしたことは沢山ある。私も最初何をしたらいいかわからず不安で日本では先輩に聞いたり、ネットと戦いながらたくさん調べたりして準備をした。しかし結局伝えたいのは中国に来てしまえばどうにでもなるということである。中国語が話せなくても日本での準備が不完全でも中国では人と助け合いながらその生活にも慣れその生活が当たり前のようになる。それこそが留学の醍醐味でもあると思う。中国の留学に悩んでいる人も中国の留学を控え準備をするためにこのレポートを読んでいる人も不安を抱えているだろうがその不安こそが留学の醍醐味だと感じてほしい。